

様式2

令和6年度 大学との連携事業「つながる学び みと☆Future College」実施報告書

拠点校名 水戸市立大場小学校

連携大学 筑波大学

研究主題 遠くに投げる体の使い方の獲得を目指した体育授業の在り方について  
～「走・跳の運動 投の運動遊び」の実践をとおして～

### 1 主題設定の理由

本校の1・2年生における新体力テストのソフトボール投げは、全国平均を下回っている。投動作の様子を観察していると、上半身と下半身を連動させることが十分にできておらず、同じ側の手と足が出てしまう児童も多く見られた。テイクバックの大きさや肘の高さなど、投球フォームに多くの課題をもっていることがわかった。

望ましい投動作が獲得できていない原因の一つとして、投にかかわる類似の運動（メンコ遊びやベーゴマ遊びなど）や、投げる運動（野球、ソフトボール、ドッジボールなど）を経験する機会の減少が考えられる。これらの運動の経験不足が、投運動の基礎感覚の不足となり投力低下へとつながっていると考えられる。

大学との連携事業2年目では、現行学習指導要領（平成29年7月）において、加えて指導することができる示された「C 陸上運動 投の運動」に、さらなる投力向上のために取り組んできた。その結果、投動作の質とボールスローの記録の双方に向上が見られた。高学年においても顕著な成果が見られたことから、より早い成長段階で投動作へのアプローチをしていくことは児童の適切な投動作の獲得に有効であると考えられる。

そこで、今年度は、児童が、低学年の発達段階に合わせた、投にかかわる類似の運動を行っていくことで、身に付けるべき投動作が獲得できると考え、本主題を設定した。

### 2 研究のねらい

本研究では、児童の望ましい投動作につながる、投にかかわる類似の運動や投運動を考案、設定し、それらが児童にとって魅力があり、自己課題の発見・解決につながり、投力の向上に効果があるのか、授業中の児童の運動の様子や、授業をとおした児童の変容を検証し、明らかにしていく。

### 3 具体的な取組内容

別添資料参照（スライド35～38）

### 4 成果（進捗状況と今後の課題）

別添資料参照（スライド39～43）